令和３年 12 月７日

養父市議会議長　西　田　雄　一　様

養父市新文化会館整備事業等特別委員会
委員長　植　村　和　好

養父市新文化会館整備事業等特別委員会中間報告書

本特別委員会において調査したことを、次のとおり中間報告する。

記

１　調査年月日　令和３年 11 月 19 日（金）

２　調 査 事 項

（１）養父市文化会館（仮称）整備事業等の進捗状況について

ア　ＣＭ方式による事業の総括について

イ　八鹿文化会館・八鹿公民館解体工事の進捗状況について

ウ　ＹＢファブの利用状況について

３　調査内容

やぶ市民交流広場（ＹＢファブ）は、９月 12 日（日）にオープニングセレモニーを行い、９月 14 日（火）から一般に利用されている。本施設の開館を受け、ＣＭ方式による整備事業の総括、供用後の利用状況及び八鹿文化会館・八鹿公民館解体工事の進捗状況について、担当部局から説明を受け調査を行った。

（１）ＣＭ方式による事業の総括について

事業全般の管理は、ＣＭ方式を導入して進めてきた。その成果検証は、有識者で構成するＣＭ委員会（６名の委員で構成）が行い、報告を終えている。

発注手法については、関西エリアでは初となるＥＣＩ方式を採用して実施設計にあたり、施工者の技術的なノウハウ及び市民意見を生かし、効率的により良い施設建設を目指してきた。

ＣＭ業務の総括として、市民会議やワークショップ等で市民との意見交換を重ね実施設計へ反映し、予算限度額内での品質確保及び事業完了

期日の厳守等が概ねできたことで、ＥＣＩ方式の導入を高く評価している。

また、建物の建設工事については、予算の範囲内で高品質の施設が完成しており、特にホールの音響性能の高さは専門的見地からも高い評価を受けている。

全体のスケジュールマネジメントも資器材、作業員確保が厳しい中ではあったが７月に引渡しを終え、９月に予定どおり開館することができた。

この事業における地元への経済効果及び貢献については、市内事業者への資器材費及び工事等の発注額が８億 6,800 万円、但馬内事業者へは 12 億 7,700 万円となり、合計 21 億 4,500 万円であった。

（２）八鹿文化会館・八鹿公民館解体工事の進捗状況について

八鹿文化会館・公民館の解体工事は、９月議会の議決後に契約締結したが、本施設をワクチン接種会場として使用する必要があったため、10 月の着工ができず年度内完了が厳しくなり、翌年度へ繰越しする予定である。また、アスベストの細部調査結果によっては、工期、工事費に影響する可能性がある。

現況は、近隣住民への説明会や近隣家屋調査を終え、アスベスト調査等を進め、仮囲いを設置し、不要備品等を搬出している。１月までにはアスベストを撤去、内外装を解体し、５月までに躯体と基礎を解体、６月に舗装箇所の復旧や整地等を行い完成する予定である。

（３）ＹＢファブの利用状況について

貸館の利用者については、リハーサル室、音楽スタジオは 10 月に 514 人、公民館７室では合計 1,315 人の利用状況となっているが、コロナ感染防止対策で利用制限中の実績である。ホールの使用実績は 10 月以降 2,817 人で、無観客イベント以外に一部のイベントを除き観客数 50%規制での実績である。

図書館の利用状況は、図書の貸出数が、９月 2,835 冊（189 冊/日）、10 月 3,894 冊（144.2 冊/日）、11 月（13 日現在）1,367 冊（113.9 冊/日）、図書カード登録は、新規 307 名、再登録 80 名で市外からの登録 39 名を含んでいる。図書貸出者数は、９月 49.3 人/日、10 月 37.1 人/日、11 月（13 日現在）32.9 人/日である。

公園広場等では、多くの幼児や子どもたちが遊び、八鹿小学校の校内マラソン大会も開催された。

＜まとめ＞

本事業は、事業管理にＣＭ方式を導入し、施工者選定においてはＥＣＩ方式を取り入れ、これまでにない手法による事業推進で完成を見た。単に設計業者に設計を発注し、建設会社に工事を発注するのではなく、設計、建設の段階から市民の想いが反映することができる工事手法の意義がＣＭ委員会報告書で述べられている。

ＣＭ業務担当からの報告では、建築に係る予算と完成期日はほぼ達成できたとしているが、用地面積の増加やアスベスト対策等により総事業費は、35 億円から約 44 億円に増加し、コロナの影響などにより、引渡しは令和３年３月末から７月末に延期されている。関西初のＥＣＩ方式により施工事業者の技術的ノウハウや市民意見を反映させたことは評価できるが、コスト面への反映は見えない部分でもある。設計者、施工者選定においては、公募型プロポーザルにより提案を基にＣＭ委員会委員を含む審査委員会で評価決定しており、設計業務は設計事務所の能力を評価し選定したとしている。

建設工事に伴う市内事業者を含む但馬内事業者への発注等は、総額 21 億 4,500 万円に上り、地域経済にも大きな効果をもたらすことができた。

八鹿文化会館・八鹿公民館の解体工事は、アスベスト撤去については、法に沿った処理を遵守し、近隣住民への騒音、振動、ほこりの軽減に努めて安全管理の徹底が求められる。

やぶ市民交流広場（ＹＢファブ）の利用は、コロナ感染対策のため、人数制限を余儀なくされているが、平時になれば利用者が増加することが期待されている。

公園広場の利用については、多くの幼児、子どもたちが芝生を走り回っている様子がみられ、遊具等の要望が高まると思われる。

文化・芸術の新たな拠点であり市民の集いの場として、より良い施設となるよう、利用者の声やニーズの把握に努め、今後の施設整備に生かされたい。